

■ 活動の前に「考える」

- なぜ「情報」がいるのか？
- いい「情報」とは、何なのか？
- 情報がないまま判断しようとしていないか
- 一方向の情報で断定しようとしていないか

■ 情報リサーチの Key コーチング

- 何のために情報があるのか
- その目的のためには、どんな情報が必要なのか
- 手持ちのカード(チャンス、環境、スキル、人)は？
- このためにどのくらい時間が使えるの？
- このプロジェクトにおける最終的な「目標」は？
- その情報はどうやったら得られるのか
- その情報は一回だけ獲得すればいいのか
- その情報は継続して得る必要があるものなのか(なぜ?)
- その情報獲得の準備はなにがあるの
- その情報は誰に依頼するのか
- その人の状況を推測したか?(その人はどんな気持ちだろう?)
- その人に、何から説明したらうまくいく?

■ 情報リサーチへのヒント

- もっといい方法のアイデアは？
- それをもっと短い時間でするためにはどうしたらいい
- それは最も新しい情報？
- それを確かめる方法は？
- それはもっと具体的にならないかな？
- もし○○だったらどうだろう？
- 何を基準に決めている？
- どこまでやる？  それを決める基準は？
- 目的のないまま多くの情報があってもダメ
- 絞り込みましょう
- 必要な情報がどこにあるのか見つけなさい
- 同じ問題に対して、違う見解を探しなさい
- “現実のできる線”妥当性を検討しましょう
- 似たプロジェクトのいろんな事例もみなさい
- 確かな所を忘れてはいけない(公的機関や研究機関などのサイト)
- どんなふうにする？  その前に必要なことは何？
- (うまくいかないとき)何が原因だろう
- ゼロベースで考えてごらん

◆ 情報リサーチへ“出かける前”にあえて「時間」をおき考える

- 状況を頭の中でイメージして予測する、時間
- 必ず身体を使って練習する、時間
- 目的をはっきりさせる、時間
- 確認リストをつくる、時間
- 仕事の洗い出しをする、時間

■ 手にいれた情報を「知識」に換える

情報を活かすということは、その情報をデータとして添えるだけではない。「考える」ために情報があるのだ

- 例えば比較する
- それを分ける
- 演繹:推論する
- 間違いを訂正する
- いろんな見方を分析する

■ チームメンバーが離れて存在しているケース(地域と大学など)

- どうしたら継続的にできるかアイデアをだしましよう
- 形式でなく、効果を得るためには、どんなふうにするか考えましよう
- 最も効果的な共有にどういったメディアを使うのか考えましよう
- 最も効果的な進行にひとつでなく、いくつかのメディアの使用を考えましよう
- メディアを介するだけでなく、直接会って進行する機会を計画的に組み込みましよう
- ITで何をやり遂げるか、常にかんがえなさい
- 他の場所にいる人と「オンラインデスクッション」を積極的にしましよう。

■ (自己)評価の観点

- どのように情報を集めたか?
- 情報を得るために複数的手段をもっているか
- ネット検索への工夫や注意はしているか
- ネット検索以外の情報獲得の方法をやっているか
- 情報提供者への配慮、感謝などの行為はあったか
- できる限り自分自身でも試してみたか
- ほかにどんな解決策があった上での“絞り”だったか
- どう検証したか?
- それを他の人とコラボレーションしたか
- ほかから学んだことで自己改善したか
- (その場その場でやるのではなく)自分なりのアルゴリズムをもっているか?  
(アルゴリズム:何か物事を行うときの自分なりの「よいやり方」「工夫」のきまり、手順)